

趣 旨

一般財団法人少林寺拳法連盟(以下「本法人」という。)の組織運営、各種事業の推進に関わるすべての関係者は、本法人の理念を追求すべく、社会的責任を果たしながら、コンプライアンスの遵守、そして、高いレベルの倫理観に従って誠実に行動し、もって本法人に向けられる社会的信頼の向上に努めなければならない。

本ガイドラインは、そのために必要なコンプライアンスに関する注意事項を整理してまとめたものである。

1 反倫理的行為に関する事項

(1) 身体的・精神的暴力行為等

- ① 組織の運営又は指導をする際に意見の相違などが生じた場合には、互いに話し合い、相手の人格を尊重して相互理解に努めること。
特に、支部長・監督・審判員等の指導的立場にある者は、個人会員を指導する際に暴力やパワーハラスメント行為と受け取られるような行いには十分留意すること。
- ② 修練や指導の際に、問題解決の手段として、暴力やパワーハラスメント行為(直接的暴力・暴言・脅迫・威圧等)を行うことは、厳に禁ずる。

(2) 身体的・精神的セクシャルハラスメント

- ① 安易に性的・性差別的言動や表現及び相手が不快に感じるような言動・表現・行為等を行うことは、厳に慎むこと。
- ② 親しみの言動・表現であっても、個人によって受け止め方に違いがあることを認識すること。
- ③ 本人に害意がない場合でも、その言動によって相手が不快に感じた場合には、セクシャルハラスメントになり得ることを認識すること。
- ④ 性的言動・表現を受けて不快に感じた場合は、無視せず相手に対して「不快である」旨をはっきり表明すること(無視することは「受け容れている」と誤解されるおそれがある)。

(3) アンチドーピング及び薬物乱用防止

- ① 技術能力を高めるためにドーピングを行うことは、少林寺拳法の理念に反するばかりではなく、個人会員の健康を害するものであり、絶対に行わないこと。
- ② 本法人関係者は、ドーピングに関する知識を十分に深めること。
- ③ 麻薬や覚醒剤等の禁止薬物の使用は、違法な行為であるのみならず、使用した人の人格を破壊するものであり。いかなる目的であっても絶対に使用しないこと。

(4) 支部長・監督・審判員等の指導的立場にある者及び個人会員等の関係の在り方

- ① 支部長・監督・審判員等の指導的立場にある者及び個人会員等は、指導者と修練者・先輩と後輩などの関係を利用し、立場の弱い者に対して反人道的な行為や強要をしないこと。
- ② 指導的立場にある者は、その立場・役割・権限等の範囲を超えた精神的・身体的暴力行為等を、個人会員等に行わないこと。
- ③ 本法人関係者は、プライバシーに関して十分な配慮をすること

2 不適切な経理処理に関する事項

(1) 経理処理

本法人及び加盟団体は、公的な組織であることを認識し、公益法人会計基準に基づく基準(経理処理)を作成し、その基準及び各団体の経理規定に則り正しい経理を行うとともに、内部牽制組織及び監事並びに外部監査法人による監査体制を整備しておくこと。

- ① 経理処理については、違法又は不正行為・不祥事等を未然に防ぐため、内部牽制を組織化し、少数の担当者に任せきりにしないこと。また、組織内部における定期的なチェック及び公認会計士などによる外部監査を受けるようにすること。
- ② 業者等との契約の際には、利益相反となることを避けるとともに、契約書に暴力団排除条項を記載し、暴力団等の反社会的勢力でないことを表明・確約させること。

(2)不正行為

以下のような行為は、処分の対象にもなるので、厳に慎むこと。

- ① 金銭の横領
- ② 不適切な報酬・手当・手数料・接待・供応等の、直接的・間接的な強要・受領・提供
- ③ 備品・用具等の購入などに関わる贈収賄行為
- ④ 不適切な指導又は監査

3 各種大会における選手・役員の選考などに関する事項

本法人及び加盟団体は、各種大会における出場選手の選考にあたっては、選考基準を明確に定め、選考結果に疑念を抱かせることのないよう公平かつ透明性ある選考を行うこと。

また、選考結果に関して質問や抗議等があった場合は、速やかに対応するとともに、相手に理解されるよう明解な説明に努めるなど、適切に処理するものとする。

4 その他、一般社会人としての社会規範に関する事項

以下のような行為は、処分の対象にもなるので、厳に慎むこと。

- ① 違法賭博
- ② 暴力団等の反社会的勢力との不適切な交際など

附則 本規程は、2024年4月1日から施行する。

以上